

野鳥たより

—北海道—

第44号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 昭和56年6月21日



ノビタキ(雌) 江別市大麻 1976. 6. 撮影 猪口 卓

探鳥地案内 (大麻中央公園)	2
門別町の野鳥	鷺田善幸 3
北海道野鳥分布図をつくろう	藤巻裕蔵 7
探鳥会報告	ウトナイ湖、野幌、野幌 8
昭和56年度総会経過報告	10
チェックリスト体制の建て直しを目指して	11
探鳥会案内	11
鳥民だより・編集後記	12



も く じ

大麻中央公園

探鳥地案内

◆位置 江別市大麻

◆概況 大麻団地内の駅近くにある野幌丘陵につながる沢を利用した公園で、道路(2番通り)を挟んで2つの溜池を昔の姿を残す溪畔林や、大きく育ったカラマツ人工林などが囲んでいる。こんな状況を反映して団地内ながら比較的バリエーションに富んだ鳥相が観察できる。ムクドリ、ヒヨドリなど極く身近かなものは勿論のこと、アカゲラ、アカハラなどの森林性のもの、オシドリ、カルガモなどの水鳥も見られる。また、運がよければクマガラ(多分野幌森林公園から飛んできたもの)、カワセミ、フクロウなどが観察されることもある。

いずれにせよ、ひと気の多い団地のなかにこんな探鳥地が残されているのは驚きである。

◆探鳥コース 大麻駅北方徒歩5分、公園外周に歩道がある。1周約1時間

◆見られる鳥

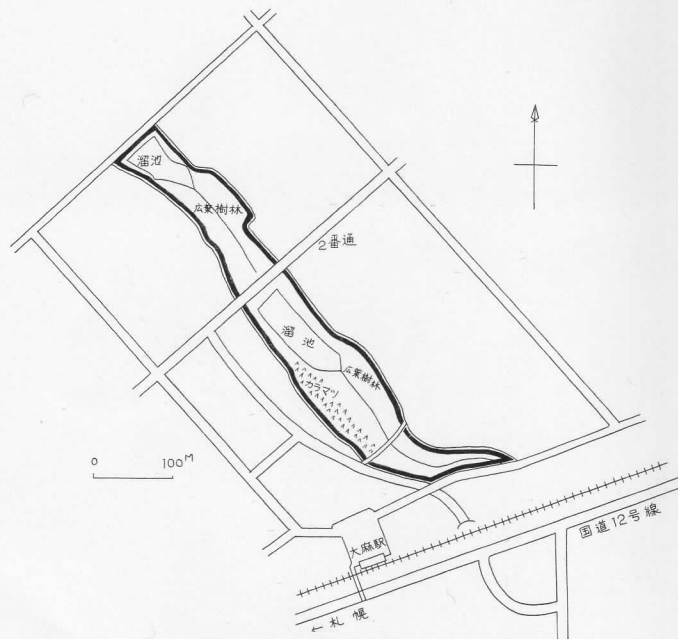
水辺: オシドリ、カルガモ、イソシギ、ハクセキレイ、カワセミなど。

林内: コルリ、ヒヨドリ、コムクドリ、

シジュウカラ、キビタキ、アカハラ、ツグミ、クロツグミ、アカゲラ、コゲラ、マミチャジナイ、カヤクグリ、シジュウカラ、ヤマゲラ、カンラダカ、ヤマガラ、カケスなど。
林縁: ムクドリ、ヒヨドリ、ハンボソガラスなど。

追記、本年5月29日朝、溜池に20

~30羽のアカエリヒレアシシギが着水した。



村野紀雄 ☎069-01 江別市大麻東町7-11

門別町の野鳥

鷺田 善 幸

1. はじめに

1977年4月から、'81年3月までの観察記録であり、沙流川中、下流域の鳥相を知る手がかりとしていただきたい。

2. 地域のあらまし

門別町は、日高支庁の西端に位置する(図1参照)。太平洋に面している沿岸部は寒暖差はあまり大きくない。積雪は30cmを越えることはなく、冬期でも地表が出ていることがしばしばある。

樹林は、針葉樹の人工林と伐採後の広葉雑木林が主である。農耕地は、牧草地が多い。

沙流川という日高最大の河川が流れているので、春秋にはシギ、チドリ類やガン、カモ類が見られる。

3. 観察方法

休日や早朝に不定期ではあるが、年間を通して行った。鳥種の識別は、9倍の双眼鏡と25倍のプロミナーを用いた。

4. 結果

4年間に記録した鳥は36科150種である。佐藤辰夫氏による「日高の鳥」(野鳥だより、第24号)では、41

科153種である。珍しいものを除くと、ほぼ同じ種が観察されている。

種類数の周年変化(図2参照)を見ると、4~6月と9月の2つのピークが現われる。4月と9月は、移動の際に一時的に飛来する種類が多くなるためである。

繁殖については、十分な調査を行っていないため不明確である。

5. いくつかの種について

次の種類についてはリストに入れなかった。クロソシロウミツバメらしい飛翔を'77年8月12日海岸で見た。

コサギらしいものを、'80年5月27日富川高校グラウンドで目撃した人の報告があった。

オオコノハズクの死骸が、'80年12月15日富川高校体育館で見つけられた。

サメビタキらしいものを'80年9月、富川自然公園で見た。

ガン、カモ類の多くは、沙流川での観察。狩猟期はハンターが来るため、ガン、カモが寄りつかず、春に多くの種類が現われる。特に雪どけの増水によって水面が広

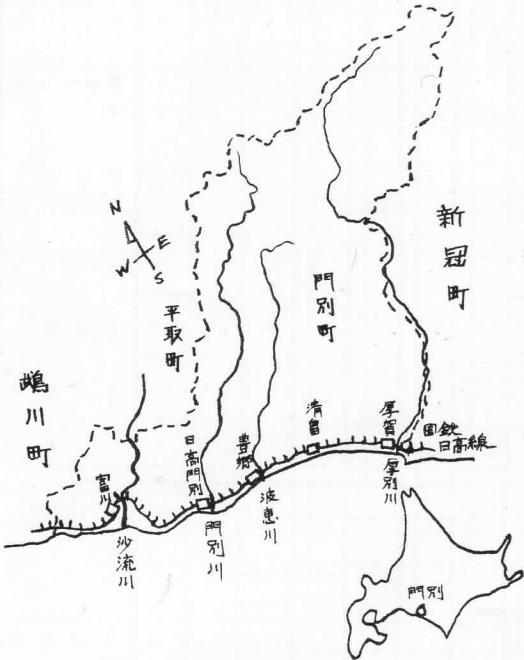


図-1 観察地域

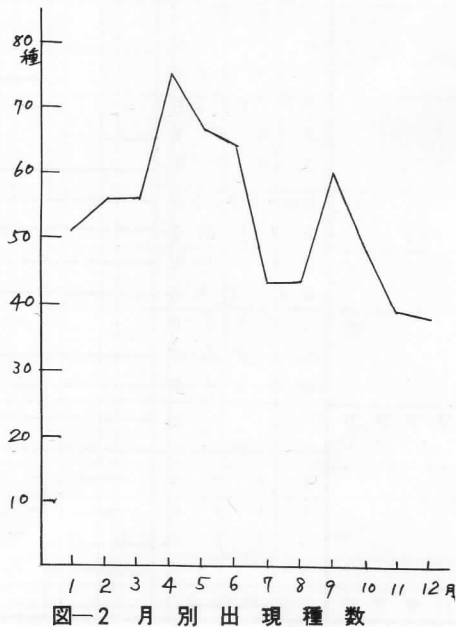


図-2 月別出現種数

がった時に多い。

シギ、チドリ類は全て沙流川下流での記録である。

河川改修が年々進み、鵜川に比べ干潟がなく、種類は多くても、個体数は少ない。

オオハクチョウは、'79年3月から、毎年10~15羽が沙流川河口に飛来した。

オジロワシ、オオワシは、1~3羽が、河口の氷上や樹上で見られる。

タカ、フクロウ類は冬期に多く見られる。オオタカの幼鳥の死骸を'79年9月、高校生が富川で見つけた。

カモメ類は、オオセグロカモメ、セグロカモメ、ユリ

カモメの順に多く、ウミネコは少ない。

ハクセキレイは、秋、沙流川河口に百羽以上集まることがある。本州へ渡る前の群れか？

シマアオジは、鵜川町潮見、えりも町で見られるが、門別町内では確認していない。

ハシブトガラとコガラは、十分識別できないため、コガラらしいものもハシブトガラに含めた。

'78年1~3月は、アトリ、ベニヒワの大群が現われ、他の冬鳥も多く現われた。

ヒヨドリ、カケスは夏期、人里を離れ山中に漂行するようである。

門別町の野鳥リスト (1977-'81)

? は十分識別できなかったもの

○ は観察回数がその月に1回のもの

科名	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
アビ	アビ												?	
カイツブリ	ミミカイツブリ											?		
	カンムリカイツブリ												?	
ウ	ウミウ													
	ヒメウ													
サギ	アオサギ													
ガンカモ	ヒシクイ													'79
	オオハクチョウ													'79~
	オシドリ													
	マガモ													
	カルガモ													
	コガモ													
	ヨシガモ													
	ヒドリガモ													
	オナガガモ								?		?	?		
	シマアジ													'80
	ホシハジロ													'80
	ハシビロガモ										?			
	キンクロハジロ													
	スズガモ													
	クロガモ													
	ビロードキンクロ													
シノリガモ														
コオリガモ														
ホオジロガモ														
ミコアイサ														
ウミアイサ														
カワアイサ														
ワシタカ	トビ													
	オジロワシ													
	オオワシ													
	オオタカ													
	ハイタカ	?	?	?	?						?			
ノスリ														
ハヤブサ	コチョウゲンボウ													'77

科名	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
ハヤブサ	チョウゲンボウ			?										
ライチョウ	エゾライチョウ									○				
キジ	コウライキジ										?			
チドリ	コチドリ													
	メダイチドリ									○				
	ムナグロ									○				
	ダイゼン									○				'80
シギ	キョウジョシギ													
	トウネン													
	ハマシギ													
	キリアイ													
	ツルシギ													
	アカアシシギ													
	アオアシシギ													
	クサシギ								?					
	タカブシギ													
	キアシシギ						○							
	イソシギ													
	ソリハシシギ													
	オグロシギ													
	オオソリハシシギ													
	チュウシャクシギ													
	タシギ					?								
	オオジシギ													
カモメ	ユリカモメ													
	セグロカモメ													
	オオセグロカモメ													
	シロカモメ													
	ウミネコ													
	ミツユビカモメ													
	アジサシ					?								
ウミスズメ	ウミスズメ													
ハト	キジバト													
	アオバト													
ホトギス	ジュウイチ													
	カッコウ													
	ツツドリ										?			
フクロウ	シロフクロウ	○												'78
	コミミズク													
	フクロウ													
アマツバメ	ハリオアマツバメ								○					'80
	アマツバメ					○								
カワセミ	アカショウビン						○							'80
	カワセミ													
キツツキ	アリスイ													
	ヤマゲラ											○		'79
	アカゲラ													
	オオアカゲラ												○	
	コゲラ													
ヒバリ	ヒバリ													
ツバメ	ショウドウツバメ				○	?								
	イワツバメ													
セキレイ	キセキレイ													
	ハクセキレイ													

科名	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
セキレイ	セグロセキレイ				○	-								
	ピンズイ													'77
ヒヨドリ	ヒヨドリ													
モズ	モズ													
	アカモズ													'78
レンジャク	キレンジャク	-												
	ヒレンジャク		○											
ヒタキ科	ノゴマ							○						'77
	ジョウビタキ		○								?	○		
	コルリ													
	ノビタキ													
	イソヒヨドリ				○									'77
	トラツグミ													
	クロツグミ								?					
	アカハラ											?		
	ツグミ													
	ウグイス													
	エゾセンニュウ													
	シマセンニュウ					○								'78
	マキノセンニュウ													
	コヨシキリ													
	オオヨシキリ													
メボソムシクイ							?	○					'78	
エゾムシクイ													'77	
センダイムシクイ														
クイタダキ		○		○								○		
キビタキ														
オオルリ														
コサメビタキ														
エナガ	エナガ													
シジュウカラ	ハシブトガラ													
	ヒガラ											?		
	ヤマガラ	○	○											'78
	シジュウカラ													
ゴジュウカラ	ゴジュウカラ													
キバシリ	キバシリ													
メジロ	メジロ					-			-					
ホオジロ	ホオジロ													
	ホオアカ													
	カシラダカ		?											
	ミヤマホオジロ	○												
	アオジ													
	オオジュリン													
アトリ	アトリ													
	カワラヒワ													
	ベニヒワ													
	ハギマシコ	○												'78
	オオマシコ	○		○	?									'78
	イスカ		○											'78
	ベニマシコ										?			
	ウソ						-							
	イカル													
	シメ													
ハタオリドリ	ニューナイスズメ					○								

科名	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
ハタオリドリ	スズメ													
ムクドリ	コムクドリ													
	ムクドリ													
カラス	カケス													
	ハシボンガラス													
	ハシブトガラス													

☎055 沙流郡門別町字富川 399



北海道野鳥分布図をつくろう

藤 卷 裕 蔵



本誌43号の「チェックリストのその後」に「北海道の分布図を完成させるという大それた事業は、取りあえず棚上げにして」とあったのをみて、あえて分布図をつくろうと提案したい。

分布図をつくるためには各地の観察記録が必要である。それを集める一つの方法はいろいろの方々にチェックリストを記入してもらうことであろう。しかしこれは小川氏が指摘するように現在ではうまくいっていない。野帳に記録した鳥の名をチェックリストに記入することは野帳を整理することになるが、何かのテーマについてまとめる目的をもって（例えば分布図をつくるのもその一つ）観察しているのでなければ、野帳の整理はおっくうな作業である。チェックリストがなかなか集まらないのは、こんなところに原因があるのではないだろうか。

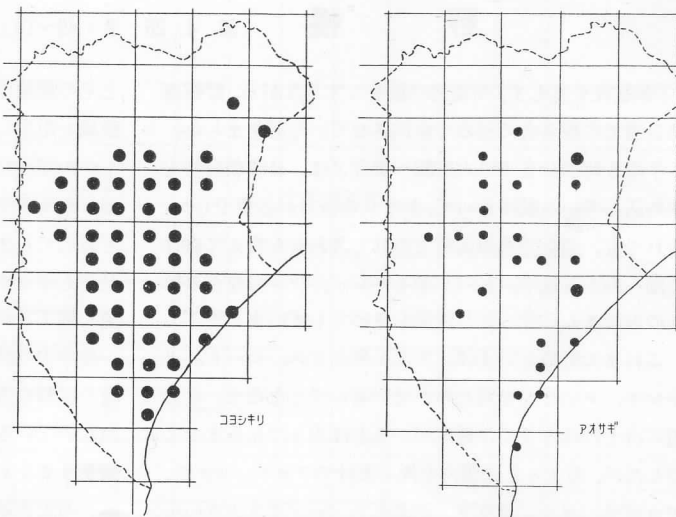
では各地のチェックリストがそろうまで全道の分布図作成は不可能だろうか。日本野鳥の会十勝支部の場合を例として紹介したい。1978年に環境庁の全国繁殖地図調査の一環として支部は十勝地方の調査を分担した。この調査の結果、1/50,000の地形図1枚につき2個所の記録が得られ、不十分であるが、十勝地方全域の鳥類の分布概要が明らかになった。これに従来の探鳥会や会員諸氏の記録をあわせて十勝地方の鳥類目録を作成した。これに記録の多かった鳥類の分布図(1/25,000地形図を1区画とした)をつけ加えた。その中のアオサギとゴヨシキリを図に示す。アオサギは海岸沿いの沼や十勝川札内川、音更川、利別川などの川沿

いに、ゴヨシキリは平野部の牧草地などに分布し、図はそれぞれの種の分布の特徴をよく表しているであろう。

現在では全国繁殖地図調査の結果がまとめられているので、これを土台とすれば十勝地方程度の資料はそろっているはずである。不完全ながら、分布図のできる可能性は十分あるのではないかと思う。ただ北海道全域を一度にまとめようとする、かなりの労力を要するので、各支庁単位で、大きな支庁では南北、または東西に二分して段階的に図化してゆく必要がある。

なお「十勝の野鳥——十勝地方鳥類目録——」を1980年に出版したが、数年後に改訂版を出す予定である。このときには、釧路支部、根室地方の会員の協力を得て道東地方の野鳥分布図ができればと思っている。

☎080 帯広市稲田町2線13番地





ウトナイ湖

56. 3. 29 10:45~13:10 吉田 一 陵

僕が初めて探鳥会に行ったのは、4年前だった。その時は4時に起きて、円山公園に行った。行く時は、目をこすりながら「こんなに早くに、鳥み

たいなおもしろくもないものなんか見て、バカじゃないか?」と思っていた。でも今は違う。全く反対で、「どんなに早くても、あんなにきれいな鳥が見られる。あんなにきれいな鳴き声が聞ける。」と思うと、心がはずみ、眠たい目もパッチリあく。

鳥がきらいだという人の大半は、臭いとか、汚ないから…という理由だと思う。でもこの理由は、どちらも鳥を飼う時の理由で野鳥を探し、見る分には関係ないから鳥を見ればよいと思う。こういうようなわけで、僕は探鳥会が、すばらしい会だと思う。

『探鳥』この言葉を聞くと大げさに聞こえる。例えば服や持ち物でいえば、長ズボン、大きなポケットつきの上着、首にカメラを掛け、肩に双眼鏡をぶらさげて、鍔の広い帽子をかぶり、上着のポケットに野鳥の本を入れ、もう片方のポケットには鉛筆と手帳を入れて、背中にはリュックサックを背負う。その中には、カメラ用品の小物や三脚が入っている……。でも実際はそんな大げさでなくても良く、普段着に運動靴でいい。少し凝るなら肩に双眼鏡かカメラをさげるといいと思う。

さて、今回の探鳥会は、ウトナイ湖だったが、僕は湖で探鳥するのは初めてだった。見た鳥の大半は水鳥で、ガンカモ科が多かった。ほったの所が白いホオジロガ

モや、鎌形のみ毛があるヨシガモやヒンの実を食べるヒシクイは印象的だった。

こんなにおもしろい探鳥会が、いつまでも続くといいと思う。でも、そのためには、一人一人が自然を大切にすることだ。遠足や遊びに行ったらまわりを汚したり、動物や草花をいじめたりしない。ごみは自分達で持ち帰り鳥たちが、住みやすい環境を作ってやる事だと思った。

(記録された鳥) アオサギ マガン ヒシクイ コブハクチョウ オオハクチョウ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ スズガモ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ トビ オジロワシ オオワシ オオタカ コチドリ ツルシギ シロカモメ カモメ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ ツグミ ツジュウカラ オオジュリン カワラヒワ ウソ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス(38種)

(参加者) 新宮康生 長谷川涼子 屋代育夫 岩泉ゆう子 羽田恭子 三輪京子 野々村 菊 山田三夫 野口正男 榊原茂樹 高橋俊博 五十川祐弘・純矢 鷺田善幸 柳沢信雄・千代子 武田勝利 中田克道・昭子・光保 渡辺紀久雄 吉田誠一・洋子・陵一・二美 藤原直人 高嶋早苗 堀内 清・八重子 北尾 論 島田明英 萩 千賀 福田久美子 野村梧郎 清田吉晴・信子 村野紀雄・森・原・千草 梅木賢俊(41名)

(担当幹事) 梅木賢俊・北尾 論

〒064 札幌市中央区南6西25

日立円山ハウス 204 (中学1年)

野 幌

56. 4. 26

8:45~13:30

長 沼 まり子

「春眠暁を覚えず」の寝惚け眼をこすりながら、野幌森林公園での探鳥会に初めて参加させていただきました。

午前8時30分までに大麻駅へ集合。私は、日頃朝寝坊を決め込んでいる私にとって、かなりの努力が必要でした。それでも、道立図書館前庭での打ち合わせを終えて森林公園へ向かう途中、ヒバリやセキレイ、アオジなどの早々のお出ましにすっかり眠気もさめてしまいました。

これまで野鳥といえば、スズメやカラス、ヒバリ、セキレイ、トビなどを見たのがせいぜいでしたので、北海道にはそれほど多くの種類がいるとは思ってもみませんでした。ちょっと公園内を周るだけでアオジ、コゲラ、アカゲラ、ゴジュウカラ、ウグイス、ハシブトガラ……

とその種類の多いことに驚いてしまいました。何分、双眼鏡を用意していなかったため、姿を確認できたのはいぐつかだけだったのは非常に残念です。(全部で30数種だったそうですが、メモを取っていなかったのではほとんど忘れてしまいました。)しかし、その張りのある澄んださえずりや素朴な、あるいは鮮やかな色彩の美しさに全く魅了されてしまったのは確かです。

林の中の野鳥はなかなか見つけにくいもので、声とは全く反対の方を探してみたり、せっかく場所を教えていただいているのに見つけることができなかつたり、双眼鏡をうまくあわせられなかつたり、あげくの果てにはカエルの大合唱を鳥の声と間違えたりで大変でしたが、幸

いの好天气に恵まれての散策と野鳥観察はたいへん楽しく、ひさしぶりに自然を満喫することができました。

そして、いつもはなんとも思わない都会の雑踏や、鮮やかな色彩の氾濫に味気なさを感じながら、帰途に就いた次第です。

さっそく双眼鏡を用意して、次回の探鳥会を心待ちにしています。

(記録された鳥) カイツブリ トビ キジバト ヤマゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ トラツグミ クロツグミ ヤブサメ ウグイス キクイタダキ ハシブトガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ ニュウナイズメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス カモ sp (32種)

野 幌

56. 5. 1

入会以来5か月、定年の身には身辺多事、さきに行われた新年度の探鳥会、探鳥散歩各1回とも欠席、今日は私にとって第2回目の探鳥会、年齢に反比例して感性は至って乏しくなりつつある。こんな私に原稿依頼のご指名。それこそ、ヒョー、これは大変、トラツグミ——こんな苦しい探鳥記です。

天気予報どおり曇天、やや肌寒い。U幹事さんのコース案内を聞き仕途につく。

前回は、ひっそりとしていた道図書館の敷地に、スズメ、ヒバリ、ムクドリ、ツグミ等が飛びかっている。U幹事さんが、「オオジシギ」と双眼鏡をのぞいている。「オオジシギ」だけは私も自信をもって見ることができる。9年前A市での私の野外手帳に細かな観察記録がある。その時はわからず、のちに道新の「庭先の野鳥」を切り抜きしているうちに判ったが、苦勞した鳥である。この勇ましい急降下、ほんとうに懐しい。「久し振りだナァ、おい」と声をかけたくなった。

野幌の小鳥たちは新入生に厳しい。鳥影も見ずにいい当てるベテラン、さすがと思う。こんな私を見かねてかうしろからもう1人のH女史幹事さんが、「こちらよ、あの切り株の右うしろに」と、ときばきと教えてください。「眼でも見えるわよ」とおっしゃる。よほど、アツ見えた。といおうとしたが、嘘はやめにした。見ているうちになるほどいたいた。曇天の空をバックに複雑に交錯した横枝の1本、まっ黒に見える背面に、いと鮮やかな黄が見える。つばさの左右に逆八の字の白い羽毛、思わず「きれいだ」と心につぶやく。キビタキはまるで自

(参加者) 菅野寿衛吉 柳沢信雄・千代子 野口正男 藤谷昭典・雅貴 山下 恵 勘野美千代 柏野佐代子 工藤孝司 金井政人 岩泉ゆう子 田辺 至 霜村耕介 早瀬広司 釘本青史 金井康雄・弓子 塚田孝一・春美 長沼まり子 水崎 理 横田通典 藤原直人 浦川昌雄 今西和弘 大坊幸七 西村辰夫・千世子 山田三夫 絵内厚子 萩 千賀 小高 康 阿部洋子 羽田恭子 屋代育夫 渡辺紀久雄 野々村 菊 村野紀雄・森・原・千草 近江一之 紅林雅文・ゆりか・幸子 清水 幸・朋子 長谷川涼子 五十川祐弘・ハナ子・純矢 青木二郎 金子誠一 岡田智己・千恵子・衣央 西尾 勝 三梅木賢俊 (60名)

(担当幹事) 梅木賢俊・長谷川涼子

〒061-21 南区真駒内緑町3丁目

緑町団地5の202

8:45~13:45

大 坊 幸 七

分の大胆なファッションを知っているかのように、誇らしげに1つだけ、ポーズを作って心ゆくまで見せてくれた。

天下の名鳥「オオルリ」も見ることができた。あいにくの天気で、さえた色が見えず少し残念。

——野幌の小鳥たちよ、徐々でもよいからその美しい姿を見せておくれよ——の1日であった。

(記録された鳥) カイツブリ アオサギ オシドリ マガモ トビ オオジシギ キジバト ヤマゲラ アカゲラ オオアカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ トラツグミ クロツグミ アカハラ ツグミ ヤブサメ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ オオルリ エナガ ハシブトガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ ホオアカ アオジ クロジ カワラヒワ ベニマシコ ウソ イカル シメ ニュウナイズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (ドバト) (41種)

(参加者) 黒田聖子 長谷川涼子 柳沢信雄・千代子 霜村耕介 白沢昌彦 早瀬広司・富 渡辺紀久雄 岩泉ゆう子 大坊幸七 阿部洋子 野口正男 野々村 菊 田辺 至 田中知朗 横田通典 清水 幸・朋子・克幸・亜樹子 久保田共子 紅林雅文・幸子 平井さち子 北尾 諭 五十川祐弘・ハナ子・純矢・祐至 梅木賢俊 羽田恭子 (32名)

(担当幹事) 野口正男・梅木賢俊

〒062 札幌市豊平区西岡2条5丁目138-29

昭和56年度 総 会 経 過 報 告

と き 昭和56年4月25日(土)午後2時～4時30分

ところ 北海道婦人文化会館

総会は柳沢幹事の司会で始まり、井上会長、菅野副会長を議長に選出した後、次の事項について審議され、原案通り可決いたしました。

年々総会に参加される会員が少なくなり、執行部としても考えるべき時期だと思われまます。

1. 昭和56年度事業報告、決算報告及び監査報告について

<事業>

- (1) 探鳥会の開催(55年4月から56年3月まで12回実施)
- (2) 探鳥会テキスト作成(月別、探鳥地別計12さつ)
- (3) 野鳥だより発行(第40号から43号まで4回)
- (4) その他の活動

<決算>収入の部

区 分	決算額	予算額	摘 要
繰越金	円 14,443	円 14,443	
会 費	513,600	600,000	
寄 付 金	6,000	10,000	
参 加 費	10,200	20,000	新年会 3,200円 藤の沢 7,000円
売 上 金	255,400	200,000	野鳥だより 200,000円 探鳥パンフ 55,400円
雑 収 入	5,426	5,557	
合 計	805,069	850,000	

<決算>支出の部

区 分	決算額	予算額	摘 要
印 刷 費	円 414,900	円 470,000	野鳥だより他
通 信 費	151,760	170,000	だより送料他
会 議 費	43,230	73,000	総会・新年会他
消 耗 品 費	19,650	10,000	宛名カード他
賃 金	25,050	20,000	チェックリスト整理費他
報 償 費	85,000	86,000	事務所謝礼他
予 備 費	0	21,000	
合 計	739,590	850,000	

差引残額 65,479円

- ・野鳥写真展の開催
- ・干潟の鳥類全国一斉調査協力(春、秋の2回)
- ・新年懇親会開催

<監査> 適正、且つ正確なものと認めます。

2. 昭和56年度事業計画及び予算案について

<事業>

- (1) 探鳥会の開催(56年4月から57年3月まで12回開催予定)
- (2) 野鳥だよりの発行(第44号から47号までの4回発行予定)
- (3) その他の事業
 - ・新年懇談会の開催
 - ・干潟鳥類全国一斉調査への協力
 - ・チェックリストによる野鳥分布調査
 - ・野鳥写真展の開催

<予算>収入の部

区 分	予算額	摘 要
繰越金	円 65,479	
会 費	591,000	{個人 555,000円(370名) {団体 36,000円(8団体)
寄 付 金	10,000	一般寄付金
参 加 費	20,000	談話会等(200円×100名)
売 上 金	210,000	野鳥だより 200,000円
雑 収 入	3,521	預金利息
合 計	900,000	

<予算>支出の部

区 分	予算額	摘 要
印 刷 費	円 460,000	会誌: 400,000円 パンフレット 30,000円
通 信 費	180,000	会誌発送 140,000円他
会 議 費	70,000	総会、幹事会、編集会議他
消 耗 品 費	15,000	事務用品等
賃 金	25,000	会誌発送、チェックリスト整理費
報 償 費	76,000	探鳥会指導、会計、事務所
予 備 費	74,000	
合 計	900,000	

3. 役員選出

欠員の副会長に監事の佐々木 勇氏、監事には幹事の野村梧郎氏を選出しました。なお幹事には次の方々ばかり、総会後の幹事会で代表幹事とそれぞれの所属とキャップもきまりましたので、あわせて報告します。

会 長 井上元則

副 会 長 菅野寿衛吉、佐々木 勇、斎藤春雄、
新妻 博、土屋文男

監 事 谷口一芳、野村梧郎

代表幹事 小堀煌治

会 計 幹 事 ○渡辺紀久雄、柳沢千代子、新宮康生

総 務 幹 事 ○島田明英、飯山五玖子、金田寿夫、中
田克郎、岡田幹夫、小堀煌治

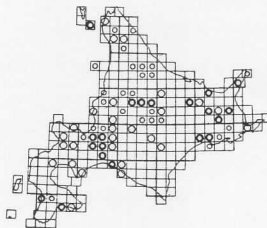
探鳥会幹事 ○北尾 諭、羽田恭子、梅木賢俊、小沢
広記、亀尾紋十郎、野口正男、早瀬広
司、平井さち子、中野高明、渡辺俊夫
長谷川涼子

広 報 幹 事 ○白沢昌彦、村野紀雄、小川 巖、
萩 千賀、猿子正彦、柳沢信雄

(○印は担当代表者)

チェックリスト体制の

建て直しを目指して



5月9日付道新夕刊にチェックリスト(長たらしいので以下CLと略す)の紹介記事が出ていたのを記憶しているでしょうか。紹介というよりはむしろ協力要請といった方がピッタリの内容で、見方によってはCL体制の不備を世にさらしたことにもなり、喜んでばかりいられないというのが実感です。

さて新聞に掲載された効果はテキメン、道内各地の15名の方から問い合わせの電話が来しました。CLについては今回初めて知ったというのは当たり前としても、驚ろいたことには、野鳥愛護会を初めて知った人が大部分だったこと。設立後10年を経ても、まだまだPRが足りないのだと痛感しない訳にはいきません。問い合わせしてくれた人達にはCL用紙だけでなく、会の入会申込書も送っておいたのはもちろんです。どんな結果が戻ってくるか今から楽しみです。それからどういう訳か、愛護会の会員からの問い合わせは皆無だったことを蛇足ながらつ

け加えておきましょう。

新聞で大々的にアピールして引込みがつかなくなったからというつもりはありませんが、前号で宣言したように、今年はCL体制の建て直しを図るべく準備を進めています。その一環として、これまでCLの回収に協力してくれた方や協力を約束してくれた方を中心にCLの用紙を送ることにしました。全道で数十人にはなるはずで、一方的な人選で恐縮ですが、絶大なる協力を期待しております。

また協力してくれそうな方を教えてもらえれば、CL用紙を送ります。特に会員数の多い札幌勢には大いに頑張ってもらわないと。この「だより」を通じて、毎号繰り返しアピールしていくことにしています。まるで現代版ドン・キホーテの心境です。くれぐれもよろしく。

チェックリスト班 小 川 巖



10月までの予定をお知らせします。どうぞご参加ください。7月は、主として草原の鳥を、8~9月は渡り途中のシギやチドリを、10月は森林の鳥をみます。

<鶴川干潟>

・とき 昭和56年8月30日(日)及び同9月20日(日)

・集合 午前9時10分、国鉄日高線鶴川駅集合

<野幌森林公園>

・とき 昭和56年10月25日(日)

・集合 午前8時30分、国鉄大麻駅集合

<野幌森林公園を歩きましょう>

上記のほか、野幌森林公園で探鳥散歩を行います。日時は、7月19日(日)、9月27日(日)、10月11日(日)です。集合は、いずれも午前8時30分、国鉄大森駅です。

- ・昼食、筆記用具、観察用具をご用意下さい。
- ・いずれも2時頃には終了します。
- ・探鳥会についてのお問い合わせは、北尾(011)611-6455番へ

・探鳥会は、ひどい暴風雨でないかぎり行います。



<会費納入について>

○今回の野鳥だよりと一諸に、「会費納入状況のお知らせ」を同封しましたので、お確かめ下さい。

○昭和56年度分会費未納の方は、納入下さるよう、お願いします。個人年額1,500円、団体年額4,500円です。会費納入の際は、郵便振替(小樽18287)を、ご利用下さい。

(会計・渡辺)

<本会の三氏、

野生鳥獣保護功勞により受賞>

井上元則会長は、永年にわたる野生鳥獣保護功勞により鳥獣保護関係の最高の栄誉である財団法人日本鳥類保護連盟総裁賞を受賞されました。

表彰式は、愛鳥週間がはじまった5月10日、広島県比婆郡西城町の県民の森で「育てよう野鳥の歌う村や都市(まち)」を全国テーマに開催された「第35回全国野鳥保護の集い」で行われ、日本鳥類保護連盟総裁常陸宮様から表彰状を授与されました。

なお、北海道における総裁賞の受賞は、阿寒町の山崎定作さん(53年、タンチョウの保護)、小樽市の佐々木 勇さん(55年、アオバトなどの保護)に次いで3人目です。

また、共和町で農業を営む会員の坂本正雄さんは、永年の野生鳥獣保護の功績により、日本鳥類保護連盟会長賞を受賞されました。

斎藤春雄副会長は、タンチョウの保護等の功績により環境庁長官の地域環境保全功勞表彰を受けられました。

環境週間中の6月8日、東京都千代田区内幸町の日本プレスセンターで表彰式が行われ、鯨岡兵輔環境庁長官から表彰状を授与されました。

なお、この表彰は環境庁設置10周年にちなんで行われたものです。

受賞された皆さんおめでとうございます。

<ウトナイ湖サンクチュアリ、

オープン>

日本野鳥の会が苫小牧郊外のウトナイ湖に建設を進めていたサンクチュアリが完成し、5月10日オープンしました。本会でも探鳥会の際などに利用することになると思います。苫東工業基地開発との関連など難しい問題がありますが、ウトナイ湖のすばらしい自然を守るため協力していきたいと思ひます。



[編] [集] [後] [記]

緑が美しい季節となり、夏鳥たちのさえずりがその美しさに色どりを添えておりますが、5月の末には道北などで降雪がある程の異常な寒波に見まれ、野鳥たちにも少なからず影響を与えているようで、新聞でも本会の会員の観察状況をまじえてこの異変を伝えて

おりました。

さて、昭和56年度に入り、先に開催されました総会において役員の変更も行われ、広報担当幹事6名が選任されました。

これからも会員各位の協力のもとに、野鳥だよりの発行等を担当いたしますので、よろしく願いいたします。

(白沢記)

〔北海道野鳥愛護会〕 年会費 1,500円(会計年度4月より) 郵便振替 小樽 18287
☎060 札幌市中央区北1条西7丁目 広井ビル5階 北海道自然保護協会気付 ☎(011)251-5465